

歲

且

卯甲吉

卯甲吉

新



783-2

濟

俳諧資料カード

年代 天明3

編者 (筆者) 之令

書名 歳旦

備考

中翻

(下垣内藏)

(原国堂)



天明三癸卯年

歳旦

若水

若水や傍中みんほもあ
若水や若水屋きすりお
若水や若水らまひやの
若水や若水下より色

梅北
八桂
煮良
六合

門松

福乃く似たりや村乃門の松

麥鹿

と活をもて用も初を名呼は生

杏文

門松や昔東家も福をくしき

桐路

門生や昔新くしきあを常

恕一

若胡

若胡も風命くりけをりし

文由

美まはれくすりねりあをひす

南東

若胡孫文胡も柳うたわ

竹外

花しとまの身くすまのす

楊杏

万歳

万歳や柳之脊のひくやん

楚流

万歳や此輩くあめり紀承く乳

子蓬

万歳や去年れ地とと踏ふし

南河

柳

柳もあうのそ心り此柳し

之園

柳くし柳松もくし柳子

桂枝

柳くし柳松もくし柳子

百し

解却て池よりくすし柳の春

風紫

梅

よく三つはみくさるわちさゆの梅

蓮史

おとろもくさくさくは梅乃そま

玉波

梅のむは遠くはるきをさくち

柳令

さきの梅白しやゆきこくまふさ

長川

苑乃事

梅成もくさくさくをさくちのま

民固

深しきやゆきこくまふさ

湖秋

あふ人くさくさくやさくちのま

東湖

婢もおちおちやゆき乃春

相江

跡くさくさくさくちのま

五鹿

雞旦

あふやも代もくさくはゆき乃

楊巷

おのきも艶の清くさくちのま

杉扇

あふさくさくさくちの川のね

菊兒

新黄蕊を多しつゝ此程に

柳丈

え梅も志すうやむれ妻

栢山

年玉や唐紙あうと杖より

蘭舟

年終魂のゆとぬみうら

壽杖

あけらのやまれきまてあま

一声

節もかゝたあれゆりふ

魚水

書唐や柳の枝も樹く風

浮橋

拵ゆ平とこへゆつや平一男

充怡

元もく後も只のやとまはり

山下

沙鈴や取ぬと折らまはる

有客

うらりき磨ひけら柳鈴

菊之

名胡柳柳陽花と定らん

楷子

おのしと青き白ひや梅の花

倚鷺

遠まや昔若くや新花一枝

因昌

さあや海に光きぬ杉の鈴

琴水

室川をひくや岩籠も地葉柳

梅處

下草やあの花もまや一方

寒藤

大くやほしたるの胡柳け

千阿

苗圃の書たれりも及赤水

可安

窓の柳神りすや香や若菜始

推文

使者の古れ春恋もすや年男

鯉邦

即れも是つゆり白けの梅のま

望橋

葉の短縄乃短くかこり縄

紅袖

あ水や赤茶と金は福と物

里桐

そのとよみと空はとくも男

盃好

あ柳れ一匠延して沙り山

松雨

昔柳やあらしの節も松と柳

此三

柳葉やほふを命に舞うく云

柳笑

あ水れ波ひとくや非れ揺

羽雪

わらやとれおてくひも車

如圭

乃早中やアノ室のせくもあ

玉里

膝袋もあけさくわとをれは

柳路

や片くふみとんをれ葉おれま

柳波

お嫁のよほつんくわをそめ

夢柳

若みく儲守とるやも鏡

梵雲

を馬や眩強んせり乳母魚

川里

先自字の何しとむ乃々
 白しと見え笑ふや
 美水や言解らん谷乃々
 谷水も解るて水乃々
 池子も唯蝶蜂や花の
 草初や秋と後う梅柳
 初翁や鳥のさうも
 予り初のけも折や門の
 万草や初も世に露乃々
 未介
 其風
 路此
 琴之
 呂泉
 ひと女
 樂女
 民女
 貴枝

井乃の細きと人さ
 初と新物にせぬの
 小まんこれ自傳
 未名や初神
 去園と後
 年姑の産れ
 名后臨や産
 女
 玉葉
 不傳
 魚先
 古可
 渡十
 華花
 喜之
 堅里
 李由

梓の字をさくや門の春

如竹

今日くわし杉真き一年月

光山

門とあそびた夜もほかりおのれ

里好

年方お酒の味もあしく

花川

ふりお花野の道りや門のね

東阿

ふりや新づつうきおれを

其良

万早や一修あふりおれを

古花

まきれおれもややわりおれを

梅五

茶を茶やほをも能く大度向

静故

初霧や只一たつもあそびを

石友

あまやも砂丁みり門の松

旭山

初り柳のまんなれ葉ももてを

宇桂

よきよに花同かのかる初りふ

梨朝

流山柳のまんなれ葉ももてを

二九

あまやも初れをまももてを

花塵

まももてを一年の福や松をり

其雄

あまやも初れをまももてを

李溪

下しあのか育有りてまももてを

千林

あまやも初れをまももてを

千玉

蓬萊草や三つ片極く水の面

之水

み水と湯や車とま車と車

葡萄兔

菴草を種くさう門乃松

桑之

門松や三つと目とら角屋

花亭

万草や折の川と親子竹

東吹

青日一

可部

海つくと文まど居る砂日水

甚詭

若みや何れと海も院てある

宇玉

了草や折の川と親子竹

嵐霄

三つと文まど居る砂日水

風和

三元

安邑

田代のや折の川と親子竹

楚幽

月舞れと若草や折の川

臨水

松や折の川と親子竹

春鹿

斗ふ草や折の川と親子竹

可考

松の草や折の川と親子竹

貞之

松の草や折の川と親子竹

螢湊

五友
 知風
 哥遊
 女輪
 孤德
 深雪
 長勇
 竹亮

雅隣
 全

汗亮
 楚幽
 雅隣
 春霞
 臨水
 聖節
 廿日市
 凡免

青柳の枝は流るるに云ふ

素流

月もいと清くあけく人條

白羽

湖知んもいづれもあつし

松之

随ふおとすやしく云はる

柳吹

やうと云ふとあつらふは後付

雪潮

卯清いそそりあつらふ輝光

春曙

卯花やれもあつらふもあつらふ

蘭香

春初もあつらふあつらふあつらふ

砧夕

春初やれあつらふあつらふあつらふ

素琴

やうと云ふとあつらふもあつらふ

夫巴

大福いづれの子やあつらふあつらふ

梅子

花もあつらふあつらふあつらふ

指月

大福やれあつらふあつらふあつらふ

雨麦

社神やうとあつらふあつらふあつらふ

哥柳

月もあつらふあつらふあつらふ

里月

あつらふあつらふあつらふあつらふ

素杉

泥初あつらふあつらふあつらふ

文佐

年指

やうきものの衣付身

五三の衣とまじり

筋の仔細のやうに静かなる

矢伏

衣の細いもの待たせや草履を

白羽

身こそ所老の鼻もよびあて

丈也

飾つるや白くしてこそ若衆

風免

髪は清くして白くと待たせあふ

素流

青陽

五日市

そふくは花衣丸もあつた

其梢

若水の志こころを耳もをん

扇語

若水や況は海も和すの浦

兔洗

空もこれと梅物なれとす

柙四

浅くくさし海の底なりとす

如流

年尾

全

汁乃依り靴の思や言はれ

扇語

靴の思や二履をありやん

其梢

帳くくせん事なるとやん

如流

素戸くくし物なりとす

柳四

歳日一

白市

ねんじろはたききりてつる乃を 白 鬼白

何保作の子えもあもやふん物 雨泉

何保作のあしそ坊へははむあ 浮遊

門下や文作をひき一里塚 楚嶋

新子もゆひは言や細り新 蘭往

吹りけり蒼もそくくあ物 羽人

若くもあそふ柳りまもを 雨尺

そりあや柳りあそふ村もを 章玉

半助やあそふもむれ吉徳園 汀湖

新しん白そゆかや後保 秀女

まねれあや物り後平豆屋 富士女

あそふやあそふらふれあそふ 文亭

若水のあそふ物りあそふ 死女 少年

あそふもあそふあそふあそふ 柗舎

年梢

左

あそふあそふあそふあそふ 章玉

あそふあそふの浦をゆりぬ 雨尺

あそふあそふあそふあそふ 浮仙

蝶採や只ねも向一好子何依 幾竹

佛採や只ねも向一好子何依 林宇

採中も只ねも向一好子何依 南島

蝶採のみ採ふや只ねも向一好子何依 一瓶

佛採や只ねも向一好子何依 汀湖

志道は只ねも向一好子何依 第士女

月心月すも只ねも向一好子何依 柳舎

阿なえ採ふ年只ねも向一好子何依 兔白

佛採や只ねも向一好子何依 桐着

まねる也一ありしや採採 羽人

兩節 小方

えりや採採中只ねも向一好子何依 可友

あきや採採中只ねも向一好子何依

全 大河

美如や採採中只ねも向一好子何依 梁瓜

采採中只ねも向一好子何依

全 丹名

採のまき中只ねも向一好子何依 珉泉

夕月宮の燭の納る漆の丸 珉泉

全 柞木

わらわは神といふやもや思ふ此 杵旭

啼つるや河をなむしあし 翠風

年 旦 向灘

昔より名やもわおる漆の丸 湖秋

旦 暮 瀬戸

物も冬を運上柳や夕の光 車螯

は陸川や対する方れば初夜 春碓

け内し月しあわや新考腕 杏陰

思あ中たもこ鳥や居れば年忘

歳 旦 阿賀

門松やまゝま程竹のまゝ并 沙鷗

山姥を逢ひおるやもなむとれと 時航

る形の名意幸やるまゝ概 如杉

影ゆゑも今時此柳や把筆中 雲陽

少和や地納るる如く乳母も同し 漆枝

少年

る水や回るる如くやるる如く之 柳雲

若也草中ゆく扇の影のこぬ
梅度
草中や海まらうつは流るる
時中

歳暮

帰稿やいふをいふをいふ
羽航

そのまじや柳をたはらふ
柳栗

柳栗の枝をいづるや
如杉

柳乞や價の金に干り此夜
時中

元除 狩留鹿

鹿をいふもいふを柳に
木葉

柳中やいふ柳のこも
志紅

鹿をいふもいふを柳に
松路

柳をいふもいふを柳に
、

三元 中ノ村

多利いふもいふを柳に
東井

柳をいふもいふを柳に
卷之

多利いふもいふを柳に
春卷

多利いふもいふを柳に
藤江

柳栗や鹿の影も後日
祝車

千代しと初りなはるる丸 石遊
けりしきりあきりりりり 露犬

聖節 有田

初るや社初くらんて園鳥 其滴
初るや廣やまのまもる 柗後
初るや菴いふ同れまもる 甚友
初るの念も淡やまより 花跡
初るや歌乃ゆりの隣まもる 之柳
初るやまじけい可ぬ神を州 如鶴

初るやさあし初るるあ初 了浪
初るや草まもるるを席凡 示石
初るや庭風の初るるあ初 一小
初るや行く遠まもる初 此友
初るや初るるあまもる初 鷺洲
初るや初るるあまもる初 鷲風
初るや初るるあまもる初 士口
初るや初るるあまもる初 慰植
初るや初るるあまもる初 山石

卯多や花くさしむらやのふ

北 耳呈

卯多や鳥かゝるゆき定れ梅

十口

卯多や新苔の葉れ藤葉の方

長田 紫分

卯多や池下も四海流る川

求路

卯多やらんをりはれを心

里心

卯多や西たけの姑射の山

汲流

年尾

全

口とすわりぬかりちのち

甚隔

ちのち若れそや菴八庭

汲流

三元

宮島西町

若葉ささきささき池き振

青賀

雪り空の心くの名や新黄松

梅至

若水や津のひもあこま

桐花

まゆみ結み白壁めくくさ

可節

ちのち若れささきや

素白

まゆみわと門の杉竹葉の梅

芦竹

まゆみやささきをかたはあ

連女

まゆみやささきをかたはあ

柑中

守歳

あまの糸しりしりやまじり

梅全

煤掃や第の毎と一人ふ

素白

下まやわしりしりふ古実

柏花

おまやまじりしりしり

青葉

聖節

全東町

門まや帳まじりしりしり

東指

大指やまじりしりしり

如染

初まやまじりしりしり

亀兄

月夜乃まじりしりしり

竹波

わのしとまを連まじりしり

此朝

汐夜乃まじりしりしり

扇甫

卯鶴やまじりしりしり

笑仙

年尾

鶴拂し西の海をまじりしり

亀兄

そはまじりしりしり

如柔

日一暮

草津

まじりしりしりしり

嘯月

蓮葉やひるすゝのも暖き池

湖舟

万葉やふゆの民を望まむしき

子勅

年々無湯もやふれむの池

嘯月

雨節

能美嶋

古ひてふしふるふひれうれ

蛙笑

幼りゆくたれはほききやうれ

雲重

白くやふの平陰乃りゆをぬ

雨丹

角に桂おじふあやふふり柳

和扇

美のや一途を移りた音

素石

むれまを花のこやまねつま

其蘭

緑栞のふゆをやふりし

青陽

竹原

ふや緑の列をえりて年男

青玉

枝とけてふゆをさあちあひぬ

春路

結みの袖をやうらむやして白

霜橋

ききまを屋ほの柳をひききち

一吹

幾万里をさあちやふりし

柀窓

ふゆの節も穿らんちのぬき

双風

足也やふりて河じりも代

梅林

唐子穂はやおとせめく松の臣

雪蹄

くわたり新たれ能たなぬり

栗玉

卯も凡やまけいけしよもた畑

蝶全

ほくま行りあゆまらやまのま

大松

杉葉ののりも空候て致書

春江

く行りあゆまらやまのま

芝三

並松の葉湖とやあを卯も凡

盛水

雪も何やまけいけしよもた畑

一浦

川ふれ詠くよせたり卯も凡

一葉

ちゆくや姥うらましく卯も凡

芦鳥

卯も凡の葉湖とやあを卯も凡

友水

ひきよ北門のりも凡けは花

梅壺

年梢

年の尾やましくえる魚丸居

梅林

せりかたにりる三風や少ぬり

雪蹄

そのまもやゆき花は花は花

大松

雪蹄やまけいけしよもた畑

一浦

情もあふやけの青芭

威水

くすくすとま待る道やけの香

蝶金

やふやふりしやまの糸

帯玉

柳もやふれももひつて

春江

傾城の世帯をけや年を

双風

そらもいづつてをるや大のふ

一葉

ま待や芳也れあふ芳ゆ梅

梅壺

室形朧を望み様やけの凡

青玉

あふあふお体たふや年を

芝三

世渡りや世帯と候を解つて

戸島

あふあふあつてすしや若葉

友水

流しとてあふあふをみおれ

一吹

聖節

三 次

あふあふあふあふあふあふ

三巴

あふあふあふあふあふあふ

一林

あふあふあふあふあふあふ

雅龍

あふあふあふあふあふあふ

独遊

あふあふあふあふあふあふ

蒼向

伊勢の宮のたがひのまは 花蝶
たぐやうのめとそん目かゝめ 菊羽

日一暮 吉田

第ふく候の具を言 流峰 文藻

神のまはれを度らぬあまの 比古

新色やゆけをらとほろこはま 赤石

くくしいのなをまらさるや 百相

左病やよをまをしを 松榮

道まやの初も終んじを 幾涼

くくひや 同 柳葉

年のまはれやち 柳葉

歳旦 土山

すくひや 柳葉 家眠

了まや 柳葉 暮三

全 西調子

結ま 柳葉 三桂

約ま 柳葉 松柏

柳葉 柳葉 壽舟

あゆやみせと露のまれば
日厚

青日一
入江

あしも津連と常とらるる露
霞周
花柳
林里
梅子
花洞
一鹿

知勢やあいの物かふ系志下し
主松
知るあてあまやまはくさゆ丸
一巴
いふのあえよこてきき柳丸
土師
俊女
よるのれきとくめりみ條
花曉

歳暮

いそぐやまをきくやのふれ海
林里
築ふと津り地張や嫁御
霞周
ふふたれと九とれまや年の辰
花柳
年流りくま津と道けきね
花洞

口おしりてししや年の辰
梅子

年の辰と鶴とよれやちの光
圭松

蝶掃と嵐と極と常とれ
花曉

鳥階と胸と身とやとと
俊女

鶏旦 乃美

羽帯いと飾をわされ柳
文岱

甚ととりたるたにぬれおの柳
未女

伊ととあふ知くれや柳乃む
声人

年梢

多かりとるゆきととひうり
未女

雪たつくと常とと年の雪と川
文岱

青旦 戸河内

雪原とえぬれ柳や柳雪州
一故

知りあし指とれとや柳のむ
有宮

ま水やあえてたくととり力
春塘

まゝとけりりたむや年男
少年 踐言

室川や子元のなつら角力も
吳山

ふねらとおとる日傍や年男
如蘭

除夜

忍進を志す所 忍び平子 一故

娼婦の危し 小徳や ちのち 如蘭

終旦

石川口羽

夢見の信凡 夢見 春塘

居獲砂や 夢見 紫筍

年尾

挨拶のいふ 夢見 春塘

夢見や 夢見 紫筍

旦暮

号町

門の形是と 夢見 江山

負きも 夢見 年尾

両節

豊後軍本

門の形や 夢見 富春

音響のや 夢見

全

防山代

春の切や 夢見 不尺

柳乞のきね 夢見

元除 京都

九河

...

三元 大坂

無名庵

杏廬

彈日

守歲

...

杏廬

歲暮

花亭

栢山

未分

一声

喜之

此三

魚水

蝶掃や旗山守撰巻五第

杉扇

あつらひのちりまきりやのち

貫枝

衣籠り是々女房は持ぬ此

踏丸

倅のこや河老をよの三内ゆき

羽雪

古舟籠りくつて空やすし拂

克怡

仍年や奥に十三丸の歌よして

東吹

日のこやもほてまきわや年狂帝

夢柳

まこと心は懐いとし年の風

梅五

錦つらや娘の白と指を冬

筆花

仍年やいとししとちや流し

菊兒

昔夢みやや女をいかにしりしと

盃好

神人神を神くくちぬわ

蘭舟

蟻掃や佛の鳥もとを女をいし

甚雄

すしとみや一ふりうけもひけ鳥

花塵

年の尾やゆきも後の尾巻の上

襟朝

船のこよらそせり一年の糸

柳笑

そはももちわのこらや年の糸

二九

川急も先えらとちり糸の糸

李溪

猫も虫ありそを寝る年の糸

千林

杖をさし杖の中かたの裾拂
 飾つるや鬼の月の神いも
 け年のすまをたに梅のり
 おをさすすわてゆかぬを
 海に丸をさすくしかりと年の市
 年の市をさすくしかりと年の市
 小舟の帆はさしゆくゆきの中
少の体さすくしかりと
 わくしかりとすまをたに梅のり
 新法作も下りあしぬきも年を

千玉 為之 楷子 千阿 雅丈 望橋 鯉郡 寒藤 呂泉

十番船もさすくしかりと年の市
 裾拂ひはさしゆくゆきの中
 小舟の帆はさしゆくゆきの中
 わくしかりとすまをたに梅のり
 新法作も下りあしぬきも年を
 首をさすくしかりと年の市
 鶴のあしをさすくしかりと年の市
 松連てゆくしかりと年の市
 押合もさすくしかりと年の市

紅袖 旭山 里杓 魚先 琴之 柳犬 不渡 柳文 松雨

歳暮

けつものむとびの年忘
 風堂
 盃もすんでゆれや
 湖秋
 榊籠すやうねる年忘
 百し
 言事ぬの踏とめたり
 長川
 言事ぬれわれ海のとさむいふ
 素良

念ふていふ言事ぬれ
 怨一
 猿揮や馬いりしてすれする
 楚流
 すくぬのよきれとれをよき
 子蓬
 膝のおいにくくゆれてゆ
 桐路
 一もも揃くく言事や膝の言
 桂枝
 りらつみや月ちむく
 民固
 けとれ言事や膝つ
 柳令
 け年の角もあつちや伊勢此師
 玉波
 け年やせの中はけり
 蓮史

海老や蟹の丸やも長くも
三十一

此中を御座はして是れは
東湖

何れもとも御座はたれや長くも
文由

さうも御座はたれや長くも
竹外

加多御座はたれや長くも
八桂

用と鼻の房も御座はたれや
南河

らしやも御座はたれや長くも
梅北

年よつじはも御座はたれや
楊杏

身は御座はたれや長くも
杏文

先解とあてあたり年よつじ
南東

との想く遠く御座はたれや
五園

年終上戸と下戸の境を御座は
相江

年よつじはも御座はたれや
五鹿

何れもとも御座はたれや
六合

追加

三元

防室積

多水や柳のむす少挑灯

士厚

とらえとと銀子の竹とむつと月

明甫

指少と鳩の孔後やとら乃羽

岨山

室川やお月交をとも年と綾

鶯投

年梢

忌とくねととく終や年終

明甫

燭と死や三梅波の巾と法具店

鶯投

杉竹と堀入をりや年乃市

岨山

毫雜子

佩とく債をやらん帰のむ

士厚

納

